

ゴライ川再生（バングラデシュ）

バングラデシュの南西地域(以下 SWR と呼ぶ)を流れる河川の多くは、ガンジス川から流れ込む水に依存しているが、乾季の間は流量が減少し被害を被っている。1975 年に建設されたインド領のフアラッカ堰による上流での河川取水などの理由により、ガンジス川からの派川の多くが、ガンジス川から遮断されている。ガンジス川の派川の一つであるゴライ川は、SWR への重要な淡水供給源であり、唯一残された派川である。にもかかわらず、少なくともこの 20 年間、ゴライ川の乾季(12 月-4 月)の流量は減少し続けている。これによる環境への影響は深刻であり、特に保護林周辺の沿岸地域において塩水の浸入が増加している。バングラデシュ政府は、SWR において乾季流量と生態系バランスを復元するためには、ゴライ川を直ちに浚渫する必要があるという問題の緊急性から、1996 年 12 月『ゴライ川復元プロジェクト(GRRP)』の実施を決定した。これは EGIS(Environment and GIS,Dhaka)を通して調査が進められており、ゴライ川の低流量問題に対し、様々な選択肢や工学的な解決方法が調べられた(イギリスのリーズ大学地理学部による)。その結果、乾季に閉ざされていたゴライ川の流入口は、オランダ政府とベルギー政府からの出資のもとで、PPW(Pilot Priority Work)プログラムにより浚渫が行われ、流入口は開かれた状態に維持されている。

◆ 再生のポイント

- ゴライ川復元プロジェクト(GRRP)
- バングラデシュ水資源開発委員会(BWDB)による水管管理制度

◆ ゴライ川概要

SWR は 15 地区から構成され、バングラデシュ郊外エリアの 17% を占めている。土地の約 62% は耕作地であり、15% はマングローブ林(サンダーバンズ)で覆われ、13% が水域である。この土地は、ガンジス川の堆積物によって形成されており、海洋性の堆積物も一部含まれている。ゴライ川には通常、ガンジス川の年間流量の 15% が流れる。サンダーバンズのマングローブ林は、ラムサール条約で指定された地域である。海水の塩分の影響は、ゴライ川の乾季にも川に水がある場合は、通常その塩分濃度は低い。この流量減少による環境への影響は沿岸地域、サンダーバンズにおいて、塩水の浸入が増大するという点で非常に深刻なものである。乾季流量が更に減少することで、大きな環境問題につながることが懸念されている。



◆ 再生のために実施した事業

【ゴライ川復元プロジェクト(GRRP)】

プロジェクトの目的は、バングラデシュの南西地域(SWR)、特にクールナ周辺部、モングラ・ポート、沿岸地帯、そしてサンダーバンズのマングローブ林における環境悪化を防ぐことである。これは、流入口での浚渫などにより、ガンジス川からの乾季における流入水量を増加させ、水量を確保すること、流入する淡水を効果的に利用する仕組みを向上させること、持続可能性に基づいて、復元された水系を管理、維持するための組織力を高めること、によって達成される見通しである。

【バングラデシュ水資源開発委員会(BWDB)による水管管理制度】

バングラデシュにおける乾季の水資源管理の主な目的は、家庭用水、工業用水、農業用水、および環境保全に必要な水資源を確保することである。雨季の場合は、適切な洪水調節機能、排水機能を供給することが重点事項となっている。多くの川が破壊されている南西地域では、乾季にこの地域に流れ込む淡水の水量を維持するための自然の河川システムの復元改良が主な論点となっている。政策上および制度上の主な論点としては、水資源管理のための十分な制度上、政策上の骨組みを確立し遂行すること、水管理部門機関の有効性を改善すること、そして水インフラストラクチャーの運用と維持を適切に行うことなどが挙げられている。